

# 第4節 高等学校

## 1 国語科

小説『こころ』を読み、自らの在り方生き方を考える  
- 国語、第2学年 -

### (1) 研究の視点

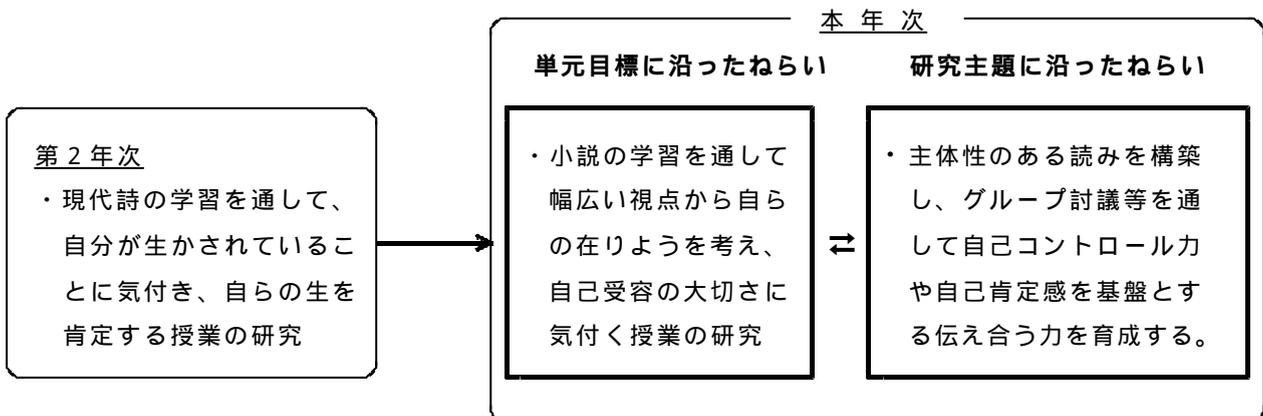
#### ア 研究の経過

第2年次の研究では、国語における「現代詩」を題材とした。人の生死を凝縮した言葉によって表現している詩を鑑賞した後、自分自身を振り返る時間を設け、自己の在り方生き方について思索をさせた。自己を客観的に見つめることができるよう、グループでの意見交流も行った。また、これまで自分を支えてくれた人に感謝の気持ちを伝える詩を創作させ、作品の交流を行い、感想を述べ合った。生に関する思いや考えを交流することで視野を広げ、生きることの意味について改めて考える機会とした。

高校1年生という精神面での発達段階を考慮し、生い立ちを主体的に省みる手立てとしてプリントを用意した。教科書の現代詩の学習をもとに、プリント学習や詩の創作、さらにグループ学習へと展開する中で、自己を振り返る場を設け、自己コントロール力をはぐくみ自己肯定感を実感することができるように企図したのである。

生徒はいずれの課題にも概ね真面目かつ意欲的に取り組んだ。詩を創作する過程で、改めて自分が多くの人に支えられていることに気付き、自分自身を慈しまねばという思いを多くの生徒が抱いた。グループでの意見交流においても、他者の思いや考えを聞くことで、再度自分の考えについて見直す姿勢を見せた。この授業実践を通して一定の自己コントロール力と自己肯定感をはぐくむことができたのではないかと考える。

ただし、次の2点については、さらに研究する必要がある。一つは、確かな言語能力が身に付き、伝え合う力を高めることができたという成就感・達成感を生徒に実感させる指導方法の工夫である。今一つは、主体的に学習に臨む姿勢を身に付けさせる指導方法の工夫である。成就感・達成感を実感させるには、授業の中で自己肯定感を実感させることがその基盤となる。主体性のある学習姿勢は、生徒自身が学習目標をもち、それを学習の最後まで保持することによって培われるものである。目標をもって粘り強く学習を継続するには、確かな自己コントロール力を具有する必要がある。これらのことから自己コントロール力や自己肯定感に視点をのこした研究をさらに進め、授業改善に努めることが大切であると考えられる。



## イ 本年度の研究の概要

本年度は散文教材を用いて研究を深めることとした。研究の視点は、第2年次の研究を踏まえ、次の2点とした。

- ア 散文教材の学習において「かかわり合い」のある学習を重視した授業を展開し、自己肯定感が実感できるようにする。
- イ 単元の導入段階において目標設定を行い、見通し（学習計画）をもって学習活動を進める。学習過程において自己コントロール力をはぐくみ、学習意欲が高まるようにする。

対象とした生徒は、高校2年生である。多くの生徒が自己の内面考察を深め、自己の適性や将来について真面目に考えるようになる時期である。このような生徒を対象として、上記の2点の視点をもとにした授業を展開することは、教材の『こころ』の一層深い読みにもつながると考える。

新学習指導要領の国語科の必修科目の一つである「国語総合」の目標には、「伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし」とあり、同じく必修科目の一つである「国語表現」の目標には、「伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる」とある。今回は、学習を進めるうえで重要な箇所の読解を自らの姿に引きつけて行うように留意し、グループ討議を取り入れることにより、伝え合う力や思考力を高めることを目指すことにした。伝え合う力を高めるには、自他の意見や感想を吟味してから発言をする能力が求められ、そのためには自己コントロール力の育成が不可欠となる。思考力や豊かな言語感覚を伴った表現力は主体的な学習を通して高められるものであり、その基盤となるのは自己肯定感が実感できる授業である。

『こころ』を読み、登場人物の心理と行動を考察しながら、自らの理想とする在り方生き方についても考察し、考えたことをプリントに書き込んだりグループで討議を行ったりすることで伝え合う力を高めようと考えた。学習を通して理想とする在り方生き方を幅広く考え、ありのままの自己を受容することも大切であることを意識させたい。自己認識を深める中において、自己コントロール力と自己肯定感をはぐくむことができるのではないかと考えた。

これらの考察をより深めることができるよう、グループ討議を行うことにした。登場人物の「K」はどうすれば自殺しなくて済んだのか、登場人物の「私」はいつの時点でどういう態度をとればよかったのか等について互いの意見を述べ検討した。グループ討議を充実させるには、グループ成員の個々の伝え合う力が必要で、グループ討議を通して生徒はその必要性を実感し、自らその力を養おうと意識することができると考えた。またカウンセリングの療法の一つである「論理療法」の手法(資料2「グループ討議」の3)を用いて自分自身を振り返らせ、柔軟な考えのもとに理想とする姿を考えるとゆとりある生き方ができることに気付かせた。

## (2) 実践的研究の概要

### 【実践事例】

単元名 「小説」 - 夏目漱石『こころ』 -

(第2学年第 類理数系)

## ア 単元設定の理由

研究授業は、普通科第 類理数系第 2 学年の学級で行った。夏目漱石の小説『こころ』（教科書は「改訂版 高等学校新訂国語二 現代文・表現編」第一学習社）を教材とした。

教科書に採録されている箇所は、小説原典の「下 先生と遺書」の中の後半の一部である。登場人物の「私」と「K」の二人が下宿先のお嬢さんに恋をして苦悩し、やがてKが自殺する場面までが採録されている。「私」が恋愛へのエゴイズムから、親友の苦悩を自己の利益に結びつけることに利用し、あげく親友は自殺してしまう。「私」はそのことについて終生罪の意識にさいなまれ、自身も自殺するに至る経緯が描かれている。この作品の一つの主題は、「私」（上巻における「先生」）の罪の意識である。誠実に生きようとして自分の心を破ってしまった先生の葛藤や苦悩を読み、エゴイズムと罪、また人はどのように生きるのがその人にふさわしい生き方なのかを考えさせたい。見通しをもった学習計画を立てることで、登場人物の「私」や「K」の立場に立ち、自分ならどのように考え、どういう行動をとるのかを順次考えながら本文を読解していく。このことにより単元の目標を達成すると同時に深い自己洞察を促すことができると考えた。また、高校 2 年生となり各人が自らの在り方生き方の考察を深めている中で、青年期特有の理想を追い求める気持ちが強くなりすぎ、それに縛られて窮屈な思いをして生きていないかということも確かめさせたい。ゆったりとした気持ちで生き、その中で自分の可能性を伸ばすにはどういうことを心掛ければよいのかということも考えさせたい。

長編小説の学習には時間がかかり、最後まで能動的に学習を続けるには、学習の見通しをもつことが大切となる。学習の目標をもつことによって主体的に授業に臨むことができ、自主的に課題解決を図る効果が期待できる。他の教材よりも長時間に及ぶ学習の継続は、自己コントロール力の育成につながるのではないかと考えた。また自らを振り返り、自分の可能性に前向きな視線を注ぐことにより自己肯定感が実感できるのではないかと考えた。グループの中で意見交流をすることで、他者の考えのよさに気付くとともに自己のよさにも目を向けることができる。併せて他者の考えをじっくりと聞く姿勢を養うこともできる。これらのことを通して、自己コントロール力と自己肯定感を育成することができるのではないかと考えたのである。

主体的な読みを深める中で『こころ』の巧みな構成に気付き、漱石の他の作品にも興味をもつとともに他の作家の小説にも関心を示し、自ら進んで読書する姿勢を涵養することもできるのではなかろうか。ただし、これは『こころ』がもつ魅力に直接生徒が触れることによるのみ可能であるため、いかに生徒が主体的に読みを深める授業を展開できるかが鍵となる。本文において登場人物が発するキーワード的な言葉のもつ意味や解釈を時間をかけて詳細に行い、そこから登場人物の心情把握や内容理解に努めるだけでは、生徒が主体的に臨む授業を展開するのは難しいのではないかと考える。

## イ 単元の目標

- ・小説の構成を明らかにして登場人物の心理の推移を把握し、主題に迫る。
- ・登場人物の「私」と「K」の生き方についての考察を深め、人としての望ましい在り方生き方を考え、意見として明確に表現する。
- ・長編小説をじっくりと読み味わい、小説への興味、関心をもつ。

## ウ 研究の手法と研究の概要

### (7) 指導計画と指導方法

まず教科書採録の『こころ』全文を読み、プリント（資料2）を用いた学習を通して生徒個々が学習の目あてを主体的に構築するようにした。単元の導入段階において何を学ぶのかという目標設定を明確にすることは、学習意欲を高めるために不可欠であると考えた。今回の研究では、「あなたが親友から、自分もひそかに思いを寄せている人への恋をうち明けられたらどう思うか？」と小説の内容と重なる状況を考えることで、登場人物の「私」や「K」を身近なものとし、具体的な人物像を思い浮かべることができるようにした。こうすることで登場人物の心情理解が進み、作品のテーマに迫るのに効果があると考えたのである。「私」や「K」がどういう思いのもとに行動したのかを考察し、では自分ならどう思いどう行動したのか、また今の自分はどのような生き方をしているのかといった自己省察を通して自己肯定感を実感できるように考えた。

また、「かかわり合い」を重視し、「私」や「K」の生き方についての考えをグループの中で述べ合い、「K」がどう生きるべきであったのか考えた。自分自身の理想とする生き方については、一人だけで考えているとどうしても独り善がりな考えになりがちなので、他者と交流することで視野を広げ、柔軟な思考ができるようにした。自己の在り方生き方を考える中で、自己肯定感を実感し、他者との意見交流を通して再度自己の生き方を振り返り、前向きに生きるにはどのようにすればよいのかを考えることで、自己コントロール力の育成につながると考えた。

### (1) 指導上の工夫

自己コントロール力と自己肯定感を高める工夫として次の3点を段階的に設けた。

#### 工夫1 手順を踏まえて読み込むこと

プリントを使用し、手順を踏まえて読み込むことができるようにした。プリントに書き込むことによって、自己の考えを整理しながら学習課題が明確になるようにした。課題解決を図るには、本文を主体的に読むことが必要であり、作品と粘り強くかかわることによって自己コントロール力を高めることにつながると考えた。

#### 工夫2 意見の交流

グループ討議を行い、自分の考えや感想を述べるとともに他者の考えや感想を聞く。意見表明を行い他者から認められることで自己肯定感を実感し、他者の考えをじっくりと聞く姿勢を養うことで、自己コントロール力を高めることにつながると考えた。

#### 工夫3 論理療法的手法

カウンセリングの手法の一つである論理療法的手法（資料2のプリント、「グループ討議」の3）を活用して、自己受容を行い、自己肯定感を実感できるようにした。

工夫1から工夫3は、それぞれ次のように実践した。

工夫1においては、登場人物の心情把握やいわゆる本文全体の内容把握等の授業を行った後、登場人物の「K」の自殺をどうすれば防ぐことができたのか、「私」の「K」への対応はどうするのがよかったのか等について考察した。プリントを用い、それに順次書き込むことによって各自の考えが明らかになるようにした。その際、本文を入念に読むことの指導に

留意した。

工夫2においては、グループによる意見交流を工夫1で使用したプリントを活用して行った。1グループ6名程度、6グループで実施した。グループ討議に際してもプリントを用意して、登場人物の生き方に対する意見交流を行い、登場人物の生き方の考察を深めた。登場人物の短所を長所に変える発想を行い、自己破壊へと進みかねない危機も柔軟な発想をすることで回避できることを考えた。また、各自の理想とする生き方に関する意見交流を行い、客観的に自らを振り返る場とし、今後の自らの在り方生き方について思索するようにした。

工夫3においては、論理療法の手法を活用して、自分の考えをどう変えたら前向きに生きられるかという考察をした。「こうありたい」と願う自己の姿にふさわしい言葉を思い浮かべたり、自分が他者からどのような人間であることを期待されているかを考えたりすることを通して、自己を客観的に見つめるようにした。最後に、短所を長所に変える発想を行い、幅広い視点で自己を捉え、自己受容を行えるようにした。

なお、『こころ』の学習において、語彙や語句の意味の確認やその用法の学習、登場人物の心情把握、内容分析、漱石に関する文学史的な学習等は、高等学校の多くの国語科の授業において実践されていることとさほどの差異がないと思われるので、この本文や添付資料の単元指導計画からは割愛することにする。

#### (ウ) 単元指導計画 (P.91～P.92参照)

#### エ 生徒の変容

国語 において小説の単元学習は2回目となる。第1回は1学期に中島敦の短編小説『山月記』を学習した。生徒は『山月記』の学習において、人間の自意識について考えた。主人公の自意識のうちに住む虎を飼い太らせて、自ら虎となってしまった男の自省を聞き、近代的知識人の内面に迫り、人間を凝視する眼を養った。その学習の最後で、「自己と他者という言葉を用いて李徴(=主人公)とあなたとを比較せよ」という課題を課し、自意識が過剰となりそれに踏みつぶされそうになりながらもその危機から回避するには、他者への意識とどのように折り合い、自意識をいかにコントロールするのがよいのかを考えた。今回は、その意識の在り方を長編小説を題材にエゴイズムという視点から考えるようにしてみたのである。

長文の教材は、読み通していくということだけでも意義があると思う。長いだけに読むことに苦痛を感じる生徒も少しはいたが、多くの生徒は真剣に読み通した。人生をいかに生きていくべきかということを目指す内容をもっていただけであろうが、この学習を始めるに際し、後日グループ討議をすることを予告し、最初の読みの段階から、討議で自分が何を述べるかを意識付けさせた効果もあったと考えられる。

#### (ア) 事前のアンケートと事後のアンケートから

教科書本文を一読した後と本単元学習終了後に以下のようなアンケートを実施し、生徒が小説に興味をもっているか、もつことができるようになったか、『こころ』の内容を理解できたかなどというようなことについて、自己コントロール力及び自己肯定感の視点から調べてみた。その結果、次のようなことがわかった。(次の～は、後に掲載しているアンケート項目の番号)

自己コントロール力にかかわって

日ごろから小説を読むのが好きな生徒は39%、そうでない生徒が62%であったが、学習後では、小説を読みたいと思うようになった生徒が80%に達した。『こころ』の学習において、小説を読む醍醐味を味わうことができ、じっくりと小説を読むことを通して、一定の自己コントロール力を培うことができたと考えられる。

『こころ』の内容について理解できたかどうかについては、一読後においても理解できたと思った生徒は53%いたが、学習後においては80%に達した。生徒が主体的に読み、作品と心から触れあったからではないかと考えることができる。長編小説の教材は、学習時間が長くなるが、生徒は学習課題に粘り強く取り組んだ。この課題解決に対する姿勢は、自己コントロール力の育成につながっていると考えられる。

自己肯定感にかかわって

『こころ』のような小説が好きであるかどうかについては、一読後のアンケートでは、ほぼ半々であったのに対し、学習終了後では、好きだと答えた生徒の割合が77%に達した。一読段階では暗い印象を抱いた生徒も、学習を通して人間の内面を見つめる小説に関心をもつようになったと考えられる。学習過程において人の心の本質に迫り、自分自身を振り返ったが、その中で自身の生き方を肯定的に捉え、自らの生を豊かに実感することができたと考えられる。

『こころ』を読むことは、自分にとって有意義であったかについては、一読後に63%、学習後に81%であった。一読後においても高い割合を示しているが、学習後においてはさらに高い割合となっている。高校生の読書離れが言われる中、すぐれた作品を積極的に提示していく必要がある。学習を有意義であったと捉えたのは、学習過程において自己肯定感を感じることができたことを示していると考えられる。

このように、『こころ』の授業に入る前（正確には、一読後）と終了後と比較すると全体的に、小説に対して否定的な印象をもっていた生徒も、肯定的な印象をもつようになったことがわかる。活字離れが言われる高校生も、「読まず嫌い」なだけで、一定水準以上の作品にかかわることで自らの在り方生き方を考えさせることができることがわかった。生徒個人でその変容を追っていくと、小説一般や『こころ』についてまったく否定的に見ていた生徒が、授業後のアンケートの「小説を読みたくなかったか」「『こころ』のような小説が好きか」「『こころ』を読むことは自分にとって有意義であったか」などの問いに「大変そう思う」と答えており、このような生徒にとって、この単元の学習は大いに有意義だったと思われる。

#### (4) グループ討議による自己の振り返り（自己評価）

『こころ』の登場人物の心情把握等の授業を終えてからグループ討議を実施した。「K」の自殺を防ぐ手立てをグループで考えることにより、もう一度本文を主体的に読み直した。また、カウンセリングの手法の一つである「論理療法」の手法を用いて、絶対的な考え方は選択的な考え方に変換できる、つまり複数の視点でもってものごとを考えることができることに気付くようにした。「私」の短所を長所と読み替えることにより自己受容しやすくなることにも気付くようにした。1時間のグループ討議を終えた後にアンケートを実施した（アンケート結果は、後に掲載）。

アンケート結果は、いずれの項目においても肯定的な回答の割合が高く占めた。生徒はグループ討議に意欲的に取り組んでいたことがうかがえる。単元導入時に生徒に、この単元学

習の最後にグループ討議を行うことを述べ、その目的と意義について説明し、心構えをしっかりとつようにさせたこと、プリントを用いて事前に各自の考えを整理させておき、グループ学習後にもう一度自己を振り返る時間をもったこと等が、生徒がこのグループ討議を有意義に感じた原因であろうと考える。生徒はグループの他者とかかわることで、より自己を相対化して見るができるようになった。これは個々の生徒の変容であると同時に、教室における学習集団としての変容につながると考えられる。教室を意欲的な学びの場としていくことは学習を充実するための条件として重要なことであり、ここでもグループ学習の有効性を見ることができた。

### (3) 研究のまとめ

#### ア 成果と課題

##### 工夫1の成果

プリントの設問を読むことで、学習全般の見通しがもてるようにした。本文一読後は、プリントに各自の考えを具体的に記述していくことで、自分の読みを明確に把握でき、理解十分なところとそうでないところを各自で明らかにすることができた。これは、その都度の学習課題を各自で把握できたということであり、生徒は本文をもう一度読み返して理解に努めようとした。このように粘り強く課題に取り組むことが、自己コントロール力を高める結果となったものとする。

##### 工夫2の成果

散文教材の授業においては、詳細な読解に偏ってしまうことが多かったが、今回は「かわり合い」を重視した授業を展開することによって、学習を通して自己の在り方生き方を考えさせることができた。散文に限らず文学作品を指導する際、ともすれば教師自身の「読み」を一方向的に示すことに終始してしまい、生徒に主体的に考えさせるための意見交流を図る場を設けることはなかなか困難である。活字離れが進んでいると言われる生徒に対して、一定水準の文学作品を享受させるためには、文脈を追うだけでもかなりの時間を費やさざるを得ないのが現状であり、意見交流まで時間がとれないことが多い。けれども読解だけで終わってしまうのではなく、交流の場をもつことがいかに大切かということはこの学習を通して実感することができた。

グループ討議は、事前に何を討議するかをプリントにて示し、それに各自の考えを書かせてから討議を行った。プリントをもとに、各自が自分の考えを温めて来たので、全体的に活発な討議ができた。できるだけ具体的なテーマに沿って、意見交流をさせたことも効果があった。自分の意見を他者が認めてくれることで、自己肯定感が実感でき、自己の考えをまとめたり、他者の考えをじっくり聞くことを通して、自己コントロール力を育成できたのではないかと考える。

「読み」に関しては、主な登場人物について、それぞれの考え方、心理、行動を客観的に分析し考察することで、主観的な読みから相対的な読みへの転換が可能になった。グループ討議において自分の考えを披露し、他者の考えを聞くことで、もう一度本文に立ち返り読み直す、そのことによってさらに読みを深め自分の考えを相対化できたのではないかと考える。じっくりと小説を読むことで、一人一人に様々な解釈を呼び起こすおもしろさに気付いた生徒は、この単元学習を通して、自ら進んで読書することに興味をもったのではないかと考える。

##### 工夫2の課題

グループの構成メンバーの中に、その意見交流を促進する生徒がいる場合は活発な討論が

なされたが、そのような生徒がいない場合は十分な意見交流が図れなかったグループもあった。そのような場合に教師は常に全体を見渡し、意見交流を促す援助を適宜行う必要がある。

#### 工夫3の成果

論理療法などの心理学的手法を用い、できるだけ具体的なテーマ（「もし～なら、どうしたか」「登場人物の絶対的な考え方は何で、その考えをどのように変えていけば、悲劇的な結末を迎えなくて済んだのか」「登場人物の短所を見直し、長所に反転する」など）に沿って、自分を振り返らせた。ともすれば自己嫌悪に陥ってしまう自分の短所を長所と捉え直すことは、自己受容する上で効果があった。自己の有り様を肯定的に捉えることで、自己肯定感を実感することができた。論理療法の手法は、生徒にとって目新しく、取り組みやすかったようである。

#### 工夫1から3に共通する課題

書くことにおいては、個人差が目立った。1単元の学習だけでは、書く力を確かなものにするのは難しく、国語の学習の年間を通して系統だった指導が必要であると痛感した。今回の指導要領の改訂により国語の内容構成は、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び[言語事項]と3領域1事項になり、それぞれの領域の特性を生かしながら生徒主体の言語活動を活発にすることが求められている。「B書くこと」の指導を、高等学校入学時より卒業時までの複数の年次を見通し、その中でどう育成していくか、つけたい力を明確にした3年間ないし4年間の指導計画を作成し、指導と評価が一体となった指導を推進していく必要がある。そのためには、国語科だけでなく他教科との連携や協力を図るとともに、総合的な学習の時間等の学習を通して、表現力を育成していくことが肝要であると考えられる。

### 自己コントロール力と自己肯定感との関連

長編小説の読解、特に『こころ』のような人間の心理の微妙な揺れや迷いを描いた作品の読解は、順を追った登場人物の丁寧な心情把握を必要とする。一読しただけでもう読めた、わかったと思いつく生徒の中にはいる。今回の学習では、そのような生徒を教師の発問や生徒同士の意見交流の中でもう一度本文に向き合わせることで、主体的な読みができたのではないかと考える。

今回の学習においては、一読後に登場人物の生き方を考える手立てとなるプリントを配付し、生徒に本文読解の鍵となるところを提示した。このことによって、生徒が何のためにこの小説を読むのか、なぜ学習するのかといった学習目標を明らかにすることができ、主体的に学習を進めることができたと考えられる。登場人物の心情を理解するために何度も本文に立ち返り、併せて自分ならどう考えたか、どう行動したかと考えさせた。この継続した思考、思索によって、生徒は教材を読み込むための自己コントロール力を育成することができたのではないかと考える。

またグループ討議において、自分の考えを表明し、他者からその考えに意見を返してもらうことで、自分の読みや考えを相対化することができた。他者との意見の交流の中で、自分の考えを深めることができたという実感を得、他者に認められることによって、自己肯定感を実感することができた。グループ討議においては、自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見も正確に聞き取る態度が要求される。この正確に聞き自分の考えと照らし合わせるという行為は根気が必要となり、これらのことを通しても自己コントロール力を育成することもできたのではないかと考える。

自己肯定感については、心理学的手法を活用した意見交流（グループ討議）の後、その手

法を活用して、個人で自己の在り方生き方について考えることによって、より強く実感することができた。その際前述したように、絶対的な考えを見直して選択的な考えに換えることや、短所と認識していることを長所に置き換えるのにプリントを利用し考えさせたのが、有効に機能したと考えられる。

## イ 授業改善への提言

今回の研究では、長編小説の読解に「かわり合い」を重視した授業実践を行い、教師の観察や生徒のアンケートによってその成果を検証した。検証は単元目標が達成できたかという視点と自己コントロール力及び自己肯定感の高まりがうかがわれたかという視点で行った。詩を題材に用いた昨年度の研究同様、グループ討議は、生徒に自己コントロール力と自己肯定感をはぐくむのに有効であった。高等学校の国語の授業は、「読み」を主とする散文教材においては、教師の考える正確な「読み」の指導に終始しがちで、生徒がその教材を読むことによって、どのように感じ、思い、考え、その結果、どのような考えをもつに至ったのかと生徒の変容までを確認することは少なかったのではないだろうか。読後や学習後の感想を書かせたり、小テストや定期考査において理解の定着度を検証したりしてきたが、形成的評価の面では弱い側面があったと思われる。プリントやノートの点検回数を増やし、授業中の観察も細かに行き、必要に応じてメモ等を取り、生徒の成長が細かに把握できるようにする必要がある。単元導入時における診断的評価と併せて形成的評価を重視し、生徒の課題がどこにあるのかを明らかにして授業を展開することが大切であると考えられる。

生徒が主体的に学習に臨むようにするには、教師が学習の目標を明示するだけでなく、生徒自身が内面に学習目標を構築することが不可欠である。そのためにも、評価の観点を明らかにして生徒に示し、生徒自身が各自で自己評価できる力量をつけることも大切である。自己の学習を振り返り評価し、そこから新たな課題を設定していく力量を身に付けることは、生きる力の育成につながる。これは確かな言語能力を育成することを命題とする国語の目標とも一致する。国語科の教員はこれらのことを意識し、日々の授業改善に努める必要があると考える。

### 【資料 1】

#### A 『こころ』一読後に実施したアンケート

一読した段階で次の質問に教えてください

(自分の気持ちに一番近いところの番号をつけてください)

(ア 大変そう思う イ そう思う ウ あまりそう思わない エ そうは思わない)

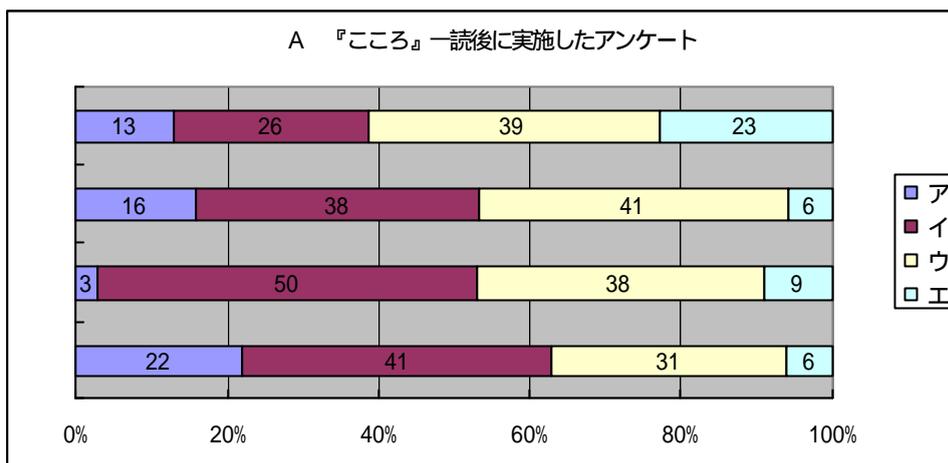
日頃から小説を読むのが好きだ。(ア イ ウ エ)

『こころ』のような小説が好きだ。(ア イ ウ エ)

『こころ』の内容について理解できた。(ア イ ウ エ)

『こころ』を読むことは、自分にとって有意義である(学ぶ点がある)。(ア イ ウ エ)

で有意義であると答えた人に尋ねます。学ぶべき点とはどのようなことですか？



### の回答より（主立ったもの）

- ・自分の中の醜い心に気付くべきだということ。自分の立場だけを考えて行動すればより大きな苦痛が返ってくるということ。
- ・自分の気持ちを大切にしたいということ。人生幸せだけじゃないということ。
- ・学ぶべき点というより、感じた点は、人が人を信じるといふことの恐さ。
- ・「K」が死んでしまい、「私」は「お嬢さん」を得たが、「私」は本当に幸せであったのか。また、「お嬢さん」も「私」との結婚は幸せであったのか。
- ・この話のように、自分が悩む立場にあるとき、心で思っていることと実際に行っていることが違うことがある。そういう時に人間の素直さやずるがしこさが見えてくる。
- ・期を逃すと行動できなくなる。人を陥れて手に入れた幸せは本当の幸せではない。
- ・自分の中に「私」のような心がないかどうか……。

上記のアンケートを取ると同時に、次の内容もプリントを用いて生徒に考えさせた。

- 1 もしあなたが「私」で、親友から自分もひそかに思いを寄せている人への恋を打ち明けられたら、どうすると思いますか？
- 2 もしあなたが「K」だったらどうしますか？
- 3 「K」が自殺したのは、なぜだと思いますか？
- 4 この小説の主題（テーマ）は何だと思いますか？
- 5 その他、感想や意見、疑問点などがあれば書いてください？
- 6 この小説を題材にして、話し合いをする場合どのようなことについて話し合いたいですか？

### 5の回答より

- ・人には「心」の中に、何人かの自分がいるということ。
- ・『こころ』を最初から全編読みたい。「K」の気持ちも「私」の気持ちも両方に共感できました。
- ・『こころ』という小説があることは知っていたけれど、読み進むうちに、ものすごい奥深さを感じた。人にはその人が生きてきた道があり、生きてきた過去、未来があるということを知ることができた。

## 6の回答より

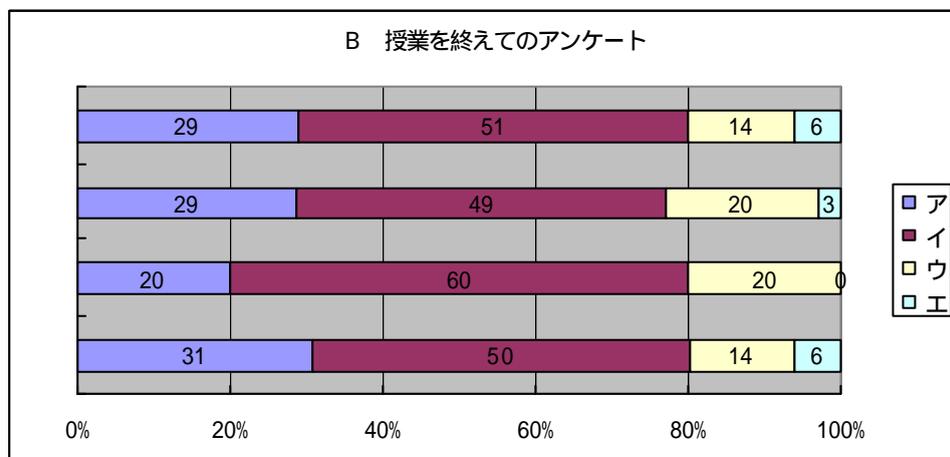
- ・「私」の「K」の告白を聞いてからの行動について。
- ・もしも自分が「私」の立場ならば、小説の「私」のようなことをするのか。
- ・「K」自殺する直前どのような気持ちであったのか。
- ・「K」はこの恋において、勝者であったのか敗者であったのか。
- ・「私」側と「K」側とに分かれて話し合いがしたい。
- ・「お嬢さん」と結婚してからの「私」の心について。
- ・「私」と「K」のそれぞれの立場に立って、何をするのが一番よかったのか。

## B 『こころ』の授業を終えて実施したアンケート

**『こころ』の授業を終えて** (自分の気持ちに一番近いところの番号に をつけてください)  
 (ア 大変そう思う イ そう思う ウ あまりそう思わない エ そうは思わない)

小説を読みたいと思うようになった。(ア イ ウ エ)  
 『こころ』のような小説が好きだ。(ア イ ウ エ)  
 『こころ』の内容について理解できた。(ア イ ウ エ)  
 『こころ』を読むことは、自分にとって有意義であった(学ぶ点があった)。(ア イ ウ エ)

で有意義であると答えた人に尋ねます。学ぶべき点とはどのようなことですか?  
 その他、意見や感想、疑問等があれば書いてください。



## の回答より

- ・自分の意志をもつことは大切だけれど、他の意見を取り入れる柔軟性をもつことも大切である。
- ・自分の思いを正直に話すことも大切であること。
- ・大切な友達も自分の利害のために傷つけてしまい、人間はいかに弱い生き物であるかという点。
- ・人の心理って自分には分からない理解できないことが多い。「私」のように理解したつもりで「理解できる」ことなんてないと思いました。その人の本当の思惑なんてその人にしか分からない。その点、上手に渡り合っていくのが人間で、友情のもつ意味かな・・・と。
- ・自分の心は一つだと思ふな。角度や視野を変えると自分の心は一つではないのに気が付く。心は無限大にあるのだ。だから、意固地になるな、自殺をするな、人生を一人の自分でなく、二人三

人の自分で歩いていくのもいいではないか。ゼロからやりなおせばいいではないか。人に迷惑をかけても、悪いと思えばそれでいいではないか。なんとか生き延びているとなにか見えてくるかもしれない。とにかく生きる！というようなメッセージが『こころ』からにじみ出ているような気がする。

- ・自分を否定するのは簡単だと思った。「私」にしても「K」にしても。何にしても否定するのは、簡単だと思った。そこからどのように考えるのかも難しい。自分にしても短所は数多く挙げられるが、長所はなかなか出ないと思う。人の気持ちはなかなかわからない。
- ・人間はやはり「私」のような立場に立つと、あんなふうに行動してしまうのだろうか。私は自分では世間体をあんまり気にするタイプではないと思うのだが、いざとなった時に「私」のように友人を裏切って自分だけ助かろうとしてしまうのではないかと少し不安になった。

### の回答より

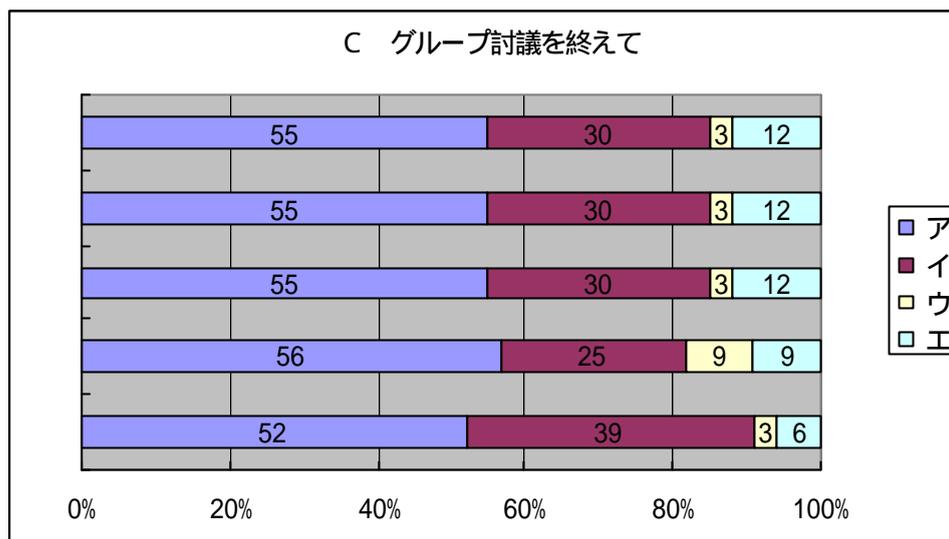
- ・私は小説など全然読まないし好きではありませんでした。けれど授業で『こころ』を読み、そのおかげで『こころ』のような小説なら読んでみたいと思うようになりました。
- ・今まで人を信じるのは素晴らしいことだと思っていたけれど、この小説を読んで人を信じることの恐ろしさみたいなことを感じ、あまり人を信じすぎるとよくないと思った。人間って難しい生き物だと思ったし、極限状態になるとこんなに醜くなるんだと思うと、自分はどのようなだろうと心配になった。
- ・読んでいて人間関係って複雑だなあと思いました。『こころ』の視点は、「私」と「K」の行動と心理ですが、これがもし現代ならと思います。この下巻だけでなく全編を通して読んでみようと思いました。
- ・自分の短所を長所と思えばそれはとても自信のつくことだと思うし、それも個性だと前向きにすることができると思う。

## C グループ討議を終えて実施したアンケート

**グループ討議を終えて** (自分の気持ちに一番近いところの番号に をつけてください)

(ア 大変そう思う イ そう思う ウ あまりそう思わない エ そう思わない)

- 協力できたか。 (ア イ ウ エ)  
参加したという実感はあったか。 (ア イ ウ エ)  
意欲的に取り組めたか。 (ア イ ウ エ)  
やりがいがあったか。 (ア イ ウ エ)  
おもしろかったか。 (ア イ ウ エ)  
どのようなことを話し合いましたか。主な意見・特に印象に残ったことなどを簡単にまとめてください。  
今日の授業に関する感想(今日のような授業の形態をどう思うか、特によかったこと、感じたこと、身に付いたこと 等)



### の回答より

- ・全部話した。 に関する意見で「K」が恋をした時に、素直になるべきであったという意見に共感した。
- ・「私」や「K」の心情やあのときああしておけばよかった等、「私」や「K」へのアドバイスみたいなもの。「K」の態度には班全員が自分の意見をもっていた。
- ・「K」について深く追究した。
- ・色々な項目についてみんなの意見が聞けてよかったです。みんなが同じ意見をもっていたり、少しずつ違う意見があったりしておもしろかったです。
- ・自分を追い込むことで意欲的になり、夢をかなえることも夢でなくなる、というのが印象的であった。

### の回答より

- ・自分の考えていなかった意見が聞けたり、意見について反論できたりするところがおもしろい。
- ・みんな自分の意見をきちんと言えてよかったと思う。話合いは大切だと感じた。
- ・話合いはいいと思う。色々な人の考えが聞けるし、自分の考え以外にこんな考えがあるのだからすごく思うことができました。
- ・同じ作品でも人が感じることはそれぞれ違うことがわかっておもしろかった。
- ・話し合ってみると、自分の考えとは違った意見が色々出て、そう考えることもできるのになって勉強になった。たまには、こういう授業もよいなと感じた。
- ・受身の授業よりこういう授業の方が考えることが多いのでよいと思う。
- ・時間が少なかった。
- ・楽しかった。盛り上がらないと思っていたけれど、盛り上がってよかった。また、違う単元でも実施したい。
- ・あまり今日のような授業形態は得意ではないので、できればやめてほしい。
- ・けっこうおもしろかったけれど、自分の意見を他の人にきちんと伝えるように話すのは少し難しいなと思いました。
- ・今回の本はおもしろかった。でも難しかった。みんなで討論したのがおもしろかった。やっぱり

色々な人がいるのと同じで、色々な考えがあるのだと思った。自分がこう思っているというのを言ったりするのもおもしろかった。また機会があれば討論をしたい。

グループ討議を終え、この単元学習の最後に、自分を振り返るプリントを用意し、よりよい生き方を考えるようにした。その中心としたのが、「グループ討議の手法を使ってあなた自身の考えをどう変えたら、前向きに生きられると思いますか」ということである。絶対的な考えを見直し、選択的な考えに換えることや、短所と認識していることを長所に置き換えることによって、緩やかに自分自身を捉え、前向きに生きる姿勢に意識を向けさせようとしたのである。生徒の考えを挙げてみる。

1 あなたの理想とする自分はどのようなものですか。「こうありたい」と願う自分の姿を思い浮かべてください。

「人に優しい自分」「人より頭のよい自分」「人から嫌われない自分」

「歌の才能のある自分」「心豊かなじぶん」

2 あなたは他の人からどのような人間であることを期待されていると思いますか。

「他の人と違う」「明るい」「自己完結」「音楽好き でもそれほどうまくはない」

「中途半端 微妙」

3 1、2から考えて、あなたの絶対的な考えはなんだと思いますか。

「～であるべきだ」「～すべきだ」という形で書き出してください。

「自分は人に優しくあるべきだ」「自分を保つべきだ」「人から嫌われないようにすべきだ」

「人間は自分にしても他人にも正直であるべきだ。」「自分の行為に責任をもつべきだ」

4 3の考えをどのように変えたらよいか。考えてみましょう。

「人間、人にやさしくするに越したことはない。しかし、時には人にやさしくできないこともある。まあ、本当にやさしくするため、他の人とは違う優しさと優しさの意味を考えていこう。」

「流されないに越したことはない。しかし、踏みとどまれない時もある。まあ、流されてもいいけれど、自分で悪いと思った影響には流されないようにしよう。」

「人から嫌われないに越したことはない。しかし、自分が他人を嫌いになることがあるように、人が自分を嫌うこともあるだろう。まあ、少しでも嫌われないようにしよう。」

5 「グループ討議」の手法を使って、あなたの性格の短所を「 」に入れ、見方を変えて長所と見ることができるよう、次の空欄を埋めてみよう。

私の短所「 」

私の長所は「 」ところです。なぜなら「 」からです。

私の短所「 すぐ怒るところ 」

私の長所は「 すぐ怒る 」ところです。なぜなら「 すぐに怒ってあとあとまでひきずらない 」からです。

私の短所「 すぐ笑うところ 」

私の長所は「 すぐ笑う 」ところです。なぜなら「 すぐに笑うとみんなも笑ってその場の雰囲気が明るくなる 」からです。

私の短所「 細かいところまでやりすぎるところ 」

私の長所は「 細かいところまでやりすぎる 」ところです。なぜなら「 一つのを仕上げた時に完成度が高くなる 」からです。

私の短所「 マイペース 」

私の長所は「 マイペース 」なところです。なぜなら「 無理せず、自分らしくいられる 」からです。

私の短所「 ルーズ 」

私の長所は「 ルーズ 」なところです。なぜなら「 のんびりとマイペースに充実した日を過ごすことができる 」からです。

単元名 国語 「小説」 - 『こころ』を読み、自らの在り方生き方を考える - (全16時間)

自己肯定感をはぐくむ視点を、自己コントロール力をはぐくむ視点を で表記

時	指導過程 指導内容	学習活動	指導上の留意点	評 価	自己肯定感をはぐくむ視点 自己コントロール力をはぐくむ視点
13	基本学習 (課題把握)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小説」を学習する目標 - 小説を読み味わうなかで、言語感覚を鋭敏にし、感性を豊かにして小説に親しむ態度を養う - を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小説」を学習するとは何かという視点を明確にし、学習についての見通しと目標がもてるようにする。</li> </ul>		
	登場人物の心理の考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の通読</li> <li>・「もし自分が登場人物の『私』や『K』であったなら、どのような思いを抱き、どのように考えて行動したのか」を考える。</li> <li>・「K」の自殺の原因を考察する。</li> <li>・『こころ』の主題について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ならどのように思い考え行動したかと、登場人物と比較させ、主体的な読みの姿勢をもつように指導する。</li> <li>・一読段階であるので、あまり詳細な考察は行わず、今後の学習において追究していくことを述べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの課題として主体的に考えようとしている。(関)</li> </ul>	<p>長編小説を、最後までじっくり読み、内容を把握する姿勢をもつ。主体性をもって作品を読み、登場人物の人物像を構築する。</p>
	『こころ』の内容理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物「私」「K」「奥さん」「お嬢さん」の性格や役割を考える。</li> <li>・「私」と「K」の生き方について考察する。</li> <li>・登場人物の心情や行動を考えることを通して、『こころ』の主題について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードとなる語句や言葉に注目させる。</li> <li>・心理描写や意識の相対性の描写などに作者の工夫があることを指摘し、作者の創作の観点を把握させる。</li> <li>・「私」の内面における友情と恋愛との相剋に留意し、時間の経過に追いつめられるように利己的に行動してしまう「私」の苦悩に注目させる。</li> <li>・「K」の絶対的とも言える考えのもとでの生き方を、もう少し柔軟にすることができなかったのかを考察させる。</li> <li>・エゴイズムの問題、倫理観の問題に焦点を合わせて、主題探究の深化を図るようにする。</li> <li>・漱石の明治国家へのかかわり方などを紹介し、作品の時代性などを分析して、主題へのアプローチを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の性格が表現されているところを正確に指摘でき、各人物像を具体的に思い浮かべることができる。(理解)</li> <li>・心理描写の箇所を正しく指摘し、その内容について把握できる。(理解)</li> </ul>	<p>粘り強く本文と向き合い、本文の内容を理解しようと努める。</p> <p>登場人物の内面の葛藤や変化をすぐれた構成のもとに描いている小説を読む楽しさに気付く。</p>

(関) 関心・意欲・態度 (表現) 表現の能力 (理解) 理解の能力 (知) 知識・理解

時	指導過程 指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価	自己肯定感をはぐくむ視点 自己コントロール力をはぐくむ視点
3	<p><b>課題設定</b> 「私」と「K」の生き方についての考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「K」はどのようにすれば自殺しなくて済んだのかを考察する。</li> <li>・「K」の絶対的な考えをどのように変えればよいのかを考察する。</li> <li>・「私」はいつの時点でどのような態度をとればよかったのかを考察する。</li> <li>・「私」や「K」の短所と思われることを、見方を変えて長所として見ることによって、生き方に幅をもたせることができ、ひいては自分に正直に生きることが楽な気持ちでできるようになることを認識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この作品の一つの大きな主題は、「私」の罪の意識にあることに留意させる。</li> <li>・プリントを配付し、順序立てて考えることができるようにする。</li> <li>・「K」を苦しめているもととなる考えを再度確認させ、その解決方法を具体的に考えさせる。</li> <li>・「K」の自殺を未然に防ぐには、「私」からのいつの時点におけるどのような働きかけが有効であったのかを考えさせる。</li> <li>・短所を長所とする理由付けを考える際に、自分の場合はどうかについてもしっかり考えるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを明確にして表現する。 (表現)</li> <li>・本文の内容を時系列を追って正確に理解している。 (理解)</li> </ul>	<p>粘り強くテーマを追究しようとする姿勢をもつ。</p> <p>自らの「生」を振り返り凝視し、自己のよりふさわしい生き方を考える。</p>
	<p><b>応用学習 (課題追究)</b> 在り方生き方を考えるグループ討議</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの在り方生き方について考える。形態はグループ別学習。 「K」はどのようにしたら、自殺せずに済んだのかを考える。 「K」の絶対的な考えを、カウンセリングの手法の一つである論理療法を用いて、選択的な考えに変換することを考える。 「私」の性格の短所を見方を変えて長所とし、その理由付けを考える。</li> <li>・グループ討議を振り返り、自己の在り方生き方について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討議の流れを全体の場で確認する。</li> <li>・感想や意見を聞き取る際のポイントを示す。</li> <li>・自分独自の考えや思いが述べられるように留意する。</li> <li>・グループ討議を通して他者への理解を深めることができるように留意する。</li> <li>・自らの在り方生き方について考えさせる。意識していないけれども絶対的と思いがちな自己の理想とする在り方生き方を視点を変えることにより、柔軟に考えることができることに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの中で協力して課題学習を進めようとする。(関)</li> <li>・自分の意見を明確に述べるができる。(表現)</li> <li>・話し手の意図に沿って正しく聞くことができる。(理解)</li> <li>・他者の思いや考えを自己の思いや考えと照らし合わせ、よりよい生き方を考えようとする。(関)</li> </ul>	<p>様々な意見や感想をもつことを肯定する。 グループで話し合う際、お互いの意見を尊重しようとする。 ねばり強くテーマを追究しようとする姿勢をもつ。 テーマを自力解決する充実感を味わう。</p> <p>自らの在り方生き方を考えることで、自尊感情を高める。 自己の存在を受け入れることの重要性に気付く。</p>

(関) 関心・意欲・態度 (表現) 表現の能力 (理解) 理解の能力 (知) 知識・理解

国語 「」 「」 の授業 プリント 二年組 ( ) ( 氏名 ) ( )

1 もしあなたが「私」( )、先生「」で、親友から「自分もひそかに思いを寄せている人へ」( )「恋」をうしろ明けられたらどう思うですか？

2 もしあなたが「K」だったら、どうしたと思いますか？

3 「K」が自殺したのはなぜだと思えますか？

4 この小説の主題(テーマ)は、何だと思えますか？

国語 「」 「」 の授業 グループ討論 一年組 ( ) ( 氏名 ) ( )

今日は、次の項目について、数人のグループで話し合ってもらいたいと思います。まず、それぞれの項目についての自分の考え方を自由に書いて下さい。その後、グループに分かれ、話し合ってもらいます。

1 Kはなぜ自殺したのだと思いますか。Kの本当の気持ちを推測しながら、次の項目について考えてみましょう。

自殺した理由

自殺を決意した時はどうか

「」 「」と早く死ぬべきだった」とは、いったいいつの時期に死ぬべきだったというのか。

2 Kは、このようにしたら、自殺しなくてすんだのだらうか。

K本人が、いつの時点でこのような態度(このような考え方)をとれば良かったか考えて書いてみましょう。

「私」は、いつの時点でこのように態度(このように考え方)をとれば良かったか考えてみましょう。

3 人間は、「絶対にすべきだ(絶対にすべきであるべきだ)」という考えのもと、理想の自分を追い求めがちです。確かに、理想の自分を持ちその理想に向かって努力することは人間にとってとても大事なことです。しかし、その理想をあまりにも絶対視するとか、このようにかえって自分を苦しめてしまうことになり、カウンセリングの療法の一つに「論理療法」というものがあります。この療法は、「絶対にすべきだ」という考えを、「できなければいけない」「～が望ましい」「～が正しい」という選択的な考え方に変化させることで様々なことから自由になることを目標としています。同じ出来事があったとしても、それをどう受け取るかは、その本人の考え次第です。同じことでは、「私は絶対に失敗すべきではない」という考えを強く持っている野球の投手がホームランを打たれた場合、「なぜ打たれてしまったんだ。もう絶対に投げられない。自分にはピッチャー失格だ。」とはげしく落ち込んでしまいます。ひどい場合は、その一度の失敗で野球をやめてしまつかも知れません。しかし、この投手の考え方を「しまった、打たれた。でも、今の球はコースが甘かったからだ。人間失敗することもあるぞ。よし

今度は、打たれないようにするぞ。」というように変えると前向きな生き方ができます。これが、論理療法の手法です。

今回読んだ「」の登場人物Kについて、この手法を使って彼の考えをどう変えたら、前向きに生きられたか考えてみましょう。

Kの絶対的な考えを書き出してみましょう。

の考えをどのように変えたら良いか、考えてみましょう。

4 Kの性格で、一般的に短所、悪いと思われるところを、いくつかあげてみましょう。

5 「」の登場人物「私」の性格で、短所、悪いと思われるところを、いくつかあげてみましょう。

6 3、4であげたKや「私」の性格の短所を「」に入れ、見方を変えて長所と見ることができるよう、次の空欄を埋めてみましょう。

例) K( )の短所「恋については優柔不断」

( )K( )の長所は「恋については優柔不断」などです。なぜなら、じっくりと物事を考え、恋する相手や周りの人を傷つけないように慎重に行動できるからです。

( ) ( )の短所「」

( ) ( )の長所は「」などです。なぜなら、」

「」からです。

国語 「」 「」 の授業 (個人用プリント) 二年組 ( ) ( 氏名 ) ( )

1 「グループ討論」3の手法を使ってあなた自身の考えをどう変えたら、前向きに生きられると思えますか。次の順で考えてください。

あなたの理想とする自分とはどのようなものですか。「」こつありたい」と願う自分の姿を思い浮かべて下さい。その姿にふさわしい言葉を五つ書き出して下さい。

例) 美しい」「かっこいい」「やさしい」「かわいい」「元気な」( )

あなたは他の人からどのような人間であることを期待されていると思えますか。その姿にふさわしい言葉を五つ書き出して下さい。

から考えて、あなたの絶対的な考えはなんだと思えますか。

「」であるべきだ」「～すべきだ」という形で書き出して下さい。

の考えをどのように変えたら良いか、考えてみましょう。

2 「グループ討論」6の手法を使ってあなたの性格の短所を「」に変えて長所と見ることができるよう、次の空欄を埋めてみましょう。

私の短所「」

「」

私の長所は「」

「」

「」

「」からです。